

筑波大学新聞

第358号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 来年度土曜授業を実施せず
「アマビエ」テーマに作品制作
- 女子陸上自衛隊の総合優勝
- 学内出店企業経営厳しく
春学期授業 舞台裏を追う

- 特集
ポストコロナ 6・7
新しいつくば②大学教育編
- ミニ特集
コロナ禍の新生活
1年生の現状を追う! 9

秋学期 対面一部再開

全体の3分の1 感染防止策講じつつ

秋学期の対面授業

条件：学生同士の間隔
前後左右1メートル以上

- ・受講者100人以上の授業はオンライン
- ・受講者100人未満でも、教室が確保できない場合はオンライン
- ・学生が対面を希望しない場合、オンラインで受講できるように対応

入構者は直近2週間の健康状態を記録・携帯
(筑波大の資料から作成)

筑波大は秋学期から対面授業を再開する。ただし、学生同士の前後左右の間隔を1メートル以上確保することが前提条件となる。学生が対面授業への参加を希望しない場合は、オンラインで受講できるように担当教員が対応する。教育推進課によると、秋学期に開講される科目の約3分の1が、対面と実施されるという。清水諭副学長(教育担当)は「これを契機に、筑波大の新しい教育システムを数年かけて構築したい」と語った。(西村大祐 Ⅱ人文学類3年、後藤佳佳 Ⅱ社会学類3年、3面に関連記事)

再開後の対面授業の条件 教室は筑波大にはない。また、100人以上が、100人未満の授業で受講する授業を開催できる。他の授業との兼ね合いも、健康状態を記録し、携帯することが求められる。秋学期の授業形態は▽オンライン(オンデマンド型)▽オンライン(同時双方向型)▽対面▽その他(の四つに分類され、教育課程編成支援システム(KaDe)上のシラバスの備考欄に明記されている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、筑波大は

春学期の授業開始日を4月27日に延期し、一部の実習などを除き授業をオンラインで実施した。各教育組織の代表者などが集まる学群教育会議が5月19日に開かれ、「1人で受けるオンライン授業は孤立感が多くなる」というなどの学生の声も報告された。清水副学長は「学生の状況を少しでも改善させると同時に、対面授業の再開が必須だと考えた」と話した。

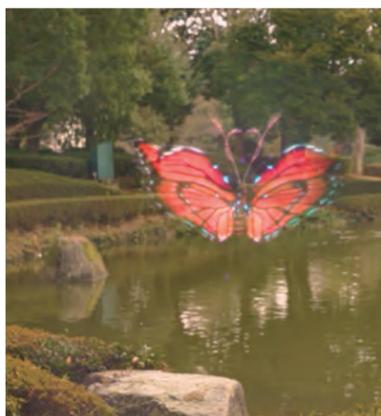


つくば歳時記
(9月25日、第一エリアで)
風が冷たさを増すと人恋しくなる。大学にはようやく活気が戻ってきた。コロナ下のキャンパスに彩りを添えたサルズベリの花も、そろそろ見納めに。(後藤佳佳、写真も)

デジタルネイチャー 研究拠点新設

センター長に落合准教授

筑波大は6月1日、デジタルネイチャーの研究と社会実装を推進する「デジタルネイチャー開発研究センター」を設立した。センター長には落合陽一准教授(図情学系)が就任した。計算機技術で音や光を制御すると、実物と見まがうチョウの映像を空中に浮遊させることができ、3Dプリンターを使うと、実物と区別がつかない物体のサンプルを出力することができる。こうした人工物と自然物との相互作用で生み出される環境がデジタルネイチャーで、「計算機自然」とも呼ばれる。コロナ禍の世界で遠隔コミュニケーションが発展し、人々の生活と計算機との関係性が深まる中、デジタルネイチャー研究の重要性も高まっている。落合准教授は2015年にデジタルネイチャー研究室を開設し、社会実装に向けた研究を続けてきた。新設された開発研究センターⅡでは、研究室で



網膜に投影されたチョウは周囲の実際の風景と見分けがつかない=落合准教授提供

し、筑波大の文化・芸術・スポーツ分野の研究者とも連携しながら研究を推進する。具体的には▽商品やサービスの開発を進める産学官連携▽海外の大学・研究機関や企業との国際連携▽デジタルネイチャーの開発研究を推進する次世代の人材育成—などを目標とする。同センターの運営費はベンチャー企業「ピクシーダストテクノロジーズ」と

の特別共同研究事業などで調達する。同社は落合准教授が代表取締役で、人間とコンピューターが共生する社会の実現に向けた技術開発に取り組む。センターには現在、5人の教員が参加しており、年間約8000万円の研究費で運営する。落合准教授は「研究室の形など、ほかの教員が研究に参画しづらい。開発研究センターの設立で、他分野とのコラボレーションを増やすことができる」と意義を語った。(大和祐菜 Ⅱ障書科学類2年)

開発研究センターⅡ 社会還元型の研究を推進し、イノベーション創出を促進するために、産学官の共同研究体制を構築する組織運営費を外部資金で賄うのが特色で、筑波大国際産学連携本部の下に置かれる。15年から特定の領域ごとに開設が始まり、デジタルネイチャー開発研究センターは10番目となる。



世界最小卵化石とギネス世界記録認定証=筑波大・兵庫県立人と自然の博物館提供

世界最小の卵化石は「ヒメ」の石のこと。「ムラカミ」は、「丹羽竜」の第一発見者で今回の調査にも貢献した。村上茂氏にちなんで「遠子内早紀」教育学類3年で、国際学術誌「クリティカル」に掲載された。田中助教は「小型恐竜の化石は残りにくい。卵の化石を手掛かりに、単作りなどその生態の解明につなげたい。ギネス世界記録の認定は、日本からも面白い発見があることを多くの人に知ってもらえれば」と話している。

丹波市は前期白亜紀の地層(篠山層群大山下層)が露出し、丹波竜(タンパティ)や卵殻化石などが見つかる一大恐竜化石産地として知られている。研究チームは主に昨年1〜3月に現地で発掘調査をし、形状を定めた恐竜の卵化石4点と卵殻片の化石約1300点を収集した。これらの卵殻は4種類に分けられた。殻の構造を顕微鏡で調べた結果、うち2種類は、獣脚類Ⅱの中にも非鳥類型の恐竜が産んだ新種の卵と確認された。

鳥ではない恐竜として世界最小となる卵化石を兵庫県丹波市にある前期白亜紀(約1億1000万年前)の地層から発見したと、筑波大の田中康平助教(生環学)と兵庫県立人と自然の博物館の研究チームが発表した。長さ4.5センチ、幅2センチ、重さは推定約10マイクログラムの卵ほども、新種と確認された。また、この化石は「世界最小の非鳥類型恐竜卵」としてギネス世界記録にも認定された。(遠子内早紀 Ⅱ教育学類3年)

世界最小の恐竜卵化石 田中助教ら発見 ギネス記録に認定

もう一種類は「サブティリオリサス・ヒョウゴエンシス」と名付けられた。同種の化石はこれまでも見つかっていたが、今回の研究で新種と判定された。丹波市では今回を含む発掘で合計6種類の恐竜卵化石が確認された。前期白亜紀の地層としてはスペイン・テルエル州の5種類を上回り、世界最多となった。研究成果は6月19日付で、国際学術誌「クリティカル」に掲載された。

「広い世界に出て、批評を受けながら成長していきなさい。高校卒業時に恩師から贈られた言葉だ。高校から短歌を始めたが、周りに仲間がいない。恩師と2人で続けてきた。大学では学内の短歌サークルに入ったが、歌風が合わずにやめてしまった。それでも、多くの歌人と交流がしたくて、今年9月に短歌結社に入った。だが、知らない人の中に飛び込んで批評を受ける勇気が持てず、歌会には参加しませんでした。転機は6月に訪れた。対面での歌会がコロナ禍で相次いで中止となるなか、有志でオンライン歌会を開くと連絡が来た。自宅から参加できる気軽さもあり、勇気が出て「参加

します」と返事した。当日は北海道や山口県など全国各地から10人が集まった。数十年の歌歴や受賞歴を持つ実力者ばかりで、私は最年少だった。用意した短歌は「須らくべし」のペーシに付箋あり努力ができた頃のわたしの。漢文をテーマにした発想が面白いね」とも、昔の自分と今の自分を比べるのはあきつた。急所を突いた指摘が次々に飛んできた。その後、先輩たちの短歌に対する意見も求められた。誰でも自由に批評し合える歌会の魅力を知り、次回の参加も決めた。コロナ禍も、悪いことばかりではないのかも。新参者の背中を押して、新たな一歩を踏み出すきっかけをくれたのだから。

春日エリアに宿泊施設開所

来訪者向け 1階にはレストランも併設



運用が始まったグローバルゲストハウス(9月1日、春日エリアで)

春日エリアで建設中だった宿泊施設「グローバルゲストハウス」の運用が9月1日に始まった。筑波大に来訪する国内外の研究者や教職員向けの施設で、1カ月未満の宿泊者が対象のゲストハウス(22室、延べ8225平方メートル)と、1カ月以上10年以内の宿泊者が対象のマンスリーゲストハウス(28室、延べ995平方メートル)の2棟からなる。老朽化した学内の宿泊施設の代替施設として、昨年2月に工事が始まった。

また、車椅子利用者が使いやすいように大きな浴槽や電動ベッドを備えた部屋がゲストハウスに1部屋、マンスリーゲストハウスに2部屋用意された。料金はゲストハウスが1泊4700円、マンスリーゲストハウスが1カ月67000円。マンスリーゲストハウスは光熱費とインターネット使用料が別途かかる。ゲストハウスの利用は1カ月前から前日までにネットか電話(080・92063004)で予約する。マンスリーゲストハウスは施設部への申請書類提出が必要だ。ゲストハウス1階にはイ

造り地上3階建て。各部屋には机やユニットバス、ミニキッチンがあり、マンスリーゲストハウスには大きなクロゼットや冷蔵庫、電子レンジも設置された。

芸術専門学群

秋に直面170科目 「オンラインでは機材不十分」

【一面参照】芸術専門学群は秋学期開設の170科目を対面で実施する。これには春学期に開講予定で、開講時期を移した10科目を含む。13科目は実技が中心の授業だ。7科目では履修者が教室の上限人数を超える恐れがあり、教室を追加・変更した。一方、共通科目の4科目は、実技授業だが、対面からオンラインに変更された。新型コロナウイルスの感染拡大で、筑波大は春学期の授業をオンラインで実施する。6月19日までは学生の入構を原則禁止していた。芸術専門学群の実技授業もオンラインとなり、開講しなかった科目も多い。体育芸術エリア支援室の担当者によると、芸術専門学群は春学期に開講予定だった103科目の実技授業のうち、61科目をオンラインで実施し、残りの42科目は開講を見合わせた。同専門学群の学生たちは春学期を前向きに受け止めるとともに、秋学期への期待も高めている。

筑波大の永田泰介学長は9月1日の開所式で「つくば駅に比較的近く料理店もあるゲストハウスで、研究

者同士の交流が深まることを期待している」と話した。(田所涼二教育学類3年写真も。12面に関連写真あり)

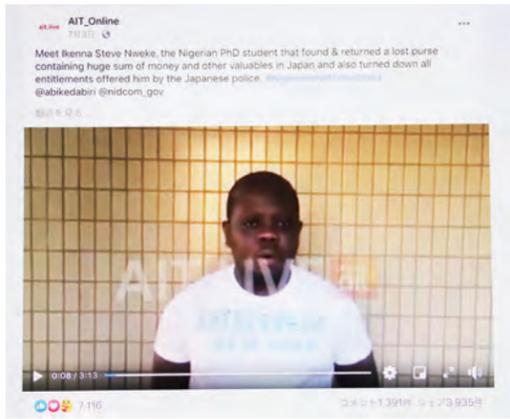
条件付きで課外活動再開

活動申請 断念する団体も

筑波大は7月22日、「課外活動制限下(自粛期間中)における活動再開に関する申し合わせ」を発表し、条件付きで課外活動を認めた。これを受け、陸上競技部や硬式野球部など運動系団体を中心に活動が再開している。学生のキャリア向上や社会貢献につながる大会、ボランティア活動に参加する機会など、主催団体が国の指針などに沿った新型コロナウイルス対策をとっていることが条件となる。学生団体は、大会やイベントごとに活動概要や主催者、団体が行う安全対策などの資料を添えて大学に申請し、許可を得る。顧問教員の付き添いも必要だ。学生生活課によると、9月23日までに、運動系学生団体が提出した52件の申請と文化系学生団体の申請1件の計53件が許可された。却下された申請はこれまでないという。だが、大会やイベントなどの開催が未定で、活動が再開できていない学内の学生団体は多い。また、大会の開催は決まっても、顧問が付き添えず申請を断念したケースもある。筑波大では4月9日に学生担当副学長名で、課外活動の自粛要請が出された。体育センターによると、自粛要請以前に体育施設を利用していた学生団体は約100あったが、現在は約35団体にとどまる。体育施設は現在、顧問の立ち会いがなければ使用できない。感染防止のため更衣室とシャワー室の利用も認められていない。学生生活課は「他大学で集団感染が発生する事態も起きている。感染状況を見極めつつ、課外活動の形態を随時見直す」と話した。(北川瑠菜二比較文化学類2年、加藤優花二国際総合学類3年)

小さな善意が母国の称賛呼ぶ

ナイジェリア人留学生ウエケさん



「いいね!」が7000件を超えた現地メディアの投稿(9月17日、本紙編集室で) = 西村大祐撮影

「あなたを誇りに思う」「真のナイジェリア大使だ」。拾った財布を交番に届け、落とし主は無事戻った。ナイジェリア人留学生の小さな善意が善行がソーシャルネットワーク・サービス(SNS)を通じて母国で話題となり、大統領からも称賛されるなど、大きな反響を呼んでいる。話題の主はナイジェリアから筑波大に留学中のイケンナ・ウエケさん(国日後期1年)。

来日したのは2013年。文部科学省の奨学金に応募したことがきっかけ。もともと忍者映画が好きなウエケさん、日本の文化に興味を持っていった。また、治安が良く、集中して勉強ができる環境が整っていると考へ、日本への留学を決めた。筑波大では、イスタム過激派の武装勢力「ボコ・ハラム」を研究している。

SNSで反響相次ぐ

ウエケさんが財布を拾ったのは、大学から帰宅途中だった6月19日午後7時ごろ。つくばセンターの広場でケバブを買って帰ろうと階段を上りかけ、何かが落ちていたことに気づいた。迷彩柄の財布だった。現金約10万円以上のほか、クレジットカードや運転免許証が入っていた。すぐに近くの交番に届けた。警察官に、持ち主から報奨金を受け取れると説明を受けたが、「私はクリスチャンで、きちんとした家庭で育った。財布を届けるのは当たり前のことと断った。財布は後日、持ち主に無

事、引き渡された。財布を届けた当時、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイでナイジェリア人が詐欺容疑で逮捕される事件があった。ウエケさんは「そのような人はわずかと世界に伝えたいと考え、自身のSNSアカウントで今回の経緯を投稿した。これを知ったナイジェリアのメディアが、#NigeriaIsNotFraudsters(ナイジェリア人は詐欺師ではない)というハッシュタグを付けてSNSで紹介。『いいね!』の反応は9月11日現在で7000件を超えた。『ナイジェリアの良いイメージを伝えてくれてありがとう』などの反響も数多く寄せられた。

人文・社会学 対面授業1割強

1B・1C棟改修工事も影響

【一面参照】1B棟と1C棟の耐震改修工事の影響で、人文学類と社会学類の対面授業の実施割合は1割強にとどまった。筑波大はこのメディアによれば、同国のプハリ大統領は7月4日、「誠実さと清廉さの価値を示した」とウエケさんを称賛する声明を発表した。ウエケさんは「大統領から称賛され、とてもうれし。私の行動がナイジェリアのよいイメージが世界に広まることを嬉しく思った。(國井俊介二社会学類3年)



耐震改修工事を実施している1B・1C棟(9月17日、第一エリアで) = 西村大祐撮影

か収容できない。現状では人文、社会学の2学類が優先して使える施設は1日棟と共同利用棟Aだけだ。1日棟などは物理学類や化学類が優先して教室を使うため、当初の計画が白紙に戻った。また、対面授業とする場合、受けられない学生向けにオンラインで同時配信したり、オンデマンドで録画を公開したりする必要もある。実施条件が厳しくなる。このため、人文学類は秋学期の授業を基本はオンラインとし、対面でない高い教育効果が得られない授業に限り対面授業とした。人文学類長の三宅裕教授(人文学)は「改修工事と感染防止で教室が確保できず、オンラインを原則として、学生が対面授業を受けたい場合は、最終的に29科目が対面授業となった。人文学類の秋学期開設科目の13・2割にあたる。社会学類でもオンラインを原則として、演習を中心に秋学期開設の13科目が対面授業を希望した。人文社会学エリア支援室の担当者によると、全科目で教室を確保することができた。社会学類の秋学期開設科目の13・7割にあたる。(西村大祐、後藤佳怡)

記者の声



西村大祐

オンライン授業 学習効果向上へ特性生かせ 大学教育改革の新たな契機

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国の大学でオンライン授業が行われている。筑波大でも、春学期の授業はオンラインでの実施が原則だった。秋学期は対面授業が一部再開したが、将来的にオンライン授業がなくなることはないだろう。時間が場所にとらわれないという利点があるが、一方で、授業の質が落ちる可能性がある。超えて、幅広い授業が選択できることが大きな特色だ。基本的には所属に関わらず、他学類の授業を自由に受けられる。この半年間で分かったからだ。オンライン授業をどう位置付けるかは、ポストコロナの大学の在り方に直結する問題だ。

オンライン授業の普及が世界規模で進めば、国境の壁がなくなる。海外の大学の授業を受けられるようになる。オンライン留学も容易になり、海外の教育研究に触れる学生の裾野も拡大していくだろう。もちろん、オンライン授業にはデメリットもある。対面でないという学生の反応が分らない場合、事前に収録した授業を学生に視聴させることで授業の確保はできる。また、事前にオンデマンド型の授業を受講し、対面で議論や討論をする「反転授業」もオンラインを効果的に取り入れた授業手法だ。オンライン授業を補助的に使うことで、対面授業の教育的効果も向上させられるのではないかと。

清水諭副学長(教育担当)は本紙の取材に対し「オンライン授業は教育改革の契機になる」と語った。オンライン授業の在り方次第で、今後の大学教育は根底から変わるはずだ。(筑波大学新聞編集長 人文学類3年)

筑波時評

我々の住む社会は目にも見えぬウイルスによって一変させられた。一方、同じく目に見えぬ我々の心の在り方もまた大きく変容している。感染歴を持つ人への偏見や誹謗は著しく、各自治体が配慮を促す呼びかけを行い、専門の相談窓口を設けるを得ないほどにまで激化している。

新型コロナと差別

こうした攻撃性の発露は何故生じるのか。心理学では、あらゆる不快な感情は思考を攻撃的な方向に誘導し、攻撃行動を動機づけることが示されてきた。機づけることが示されてきた。つまり感染への恐怖、さらに長期に及ぶ自粛ストレスや先行き不安の心の在り方もまた大きく変容している。感染歴を持つ人への偏見や誹謗は著しく、各自治体が配慮を促す呼びかけを行い、専門の相談窓口を設けるを得ないほどにまで激化している。

この半年間で分かったからだ。オンライン授業をどう位置付けるかは、ポストコロナの大学の在り方に直結する問題だ。オンライン授業の普及が世界規模で進めば、国境の壁がなくなる。海外の大学の授業を受けられるようになる。オンライン留学も容易になり、海外の教育研究に触れる学生の裾野も拡大していくだろう。もちろん、オンライン授業にはデメリットもある。対面でないという学生の反応が分らない場合、事前に収録した授業を学生に視聴させることで授業の確保はできる。また、事前にオンデマンド型の授業を受講し、対面で議論や討論をする「反転授業」もオンラインを効果的に取り入れた授業手法だ。オンライン授業を補助的に使うことで、対面授業の教育的効果も向上させられるのではないかと。

清水諭副学長(教育担当)は本紙の取材に対し「オンライン授業は教育改革の契機になる」と語った。オンライン授業の在り方次第で、今後の大学教育は根底から変わるはずだ。(筑波大学新聞編集長 人文学類3年)

藤 桂



准教授 (社会心理学)
人間系・准教授。筑波大学大学院人間総合科学研究科一貫制博士課程修了。博士(心理学)。筑波大特任助教、助教を経て、2015年より現職。

被害者を追い詰める正義感 色眼鏡を外し社会見つめて

「悪い行いをしている者はいつか悪い目に遭う。世の中であってほしいと望むものだ。こうした考えを公正世界信念と呼ぶ。ある意味では、社会の公正を追求する正義感と言い換えてもよい。『世は悪いことをしてはダメだ。悪い目に遭うものだ』『良い人が報われるわけではない』『悪い行いをしている者はいつか悪い目に遭う』と疑うことを認めるを得ないなら、社会の公正さに対するイメージが崩れてしまう。そこで公正世界信念の強い人は、世界ではなく被害者への見方を変えようとする。『実はこの被害者に落ちた責任は自分にある』と、どこか自己責任の一言で片付けられるわけではなく、万全を講じておこな

「世は悪いことをしてはダメだ。悪い目に遭うものだ』『良い人が報われるわけではない』『悪い行いをしている者はいつか悪い目に遭う』と疑うことを認めるを得ないなら、社会の公正さに対するイメージが崩れてしまう。そこで公正世界信念の強い人は、世界ではなく被害者への見方を変えようとする。『実はこの被害者に落ちた責任は自分にある』と、どこか自己責任の一言で片付けられるわけではなく、万全を講じておこな

清水諭副学長(教育担当)は本紙の取材に対し「オンライン授業は教育改革の契機になる」と語った。オンライン授業の在り方次第で、今後の大学教育は根底から変わるはずだ。(筑波大学新聞編集長 人文学類3年)

反射金

特別定額給付金の使い道

新型コロナウイルスに対する緊急経済対策として政府は国民に一律10万円を支給する特別定額給付金事業を実施した。筑波大生は10万円をどう使ったのか。オンライン会議システムを利用して聞いた。(西村大祐 人文学類3年、後藤佳伶 社会学類3年、加藤優花 国際総合学類3年)

【情報P前期1年・女性】 3人分の給付金のほとんどタブレット端末「iPad」を購入に充てた。給付d Proを買った。絵金は自分のために使った。描くことが好きで、以前なかったが、両親に言い出せから、あったら便利だと。手元に残った思っていた。大学構内が立9000円で洋服を買った。入禁止となり、オンライン授業に利用できる環境も整うと考へ、購入に踏み切った。

【社会学1年・男性】 10年間使っていた実家の冷蔵庫を買った。家族定だったTOEICが中止

【社会学3年・男性】 政治学に関する本を購入した。大金が手元にあったことで、普段よりも思い切って買った。

【社会学3年・男性】 読書を通してさまざまな分野を学びたいと思い、給付金を活用して「レニオン全集」を購入して「レニオン全集」4冊類のシリーズ本を計150冊ほど買った。新本は高価なため、古本を購入した。

【社会学3年・男性】 スマートフォンの購入と車のタイヤ交換の費用に充てた。当初は貯金しようと思っていたが、スマホが故障してしまい、新たに購入することに決めた。また、点検でタイヤの劣化が判明した。

【社会学3年・男性】 希望する企業から内定が出たら飲み会、6万円ずつ25年物のウイスキーを買った。8月下旬に無事内定が出たため、お祝い一杯飲んだ。これからは、何か良いことがあった時に飲む特別なお酒として、大事にとっておきたい。

新型コロナウイルスに対する緊急経済対策として政府は国民に一律10万円を支給する特別定額給付金事業を実施した。筑波大生は10万円をどう使ったのか。オンライン会議システムを利用して聞いた。(西村大祐 人文学類3年、後藤佳伶 社会学類3年、加藤優花 国際総合学類3年)

【社会学3年・男性】 政治学に関する本を購入した。大金が手元にあったことで、普段よりも思い切って買った。

【社会学3年・男性】 読書を通してさまざまな分野を学びたいと思い、給付金を活用して「レニオン全集」を購入して「レニオン全集」4冊類のシリーズ本を計150冊ほど買った。新本は高価なため、古本を購入した。

【社会学3年・男性】 スマートフォンの購入と車のタイヤ交換の費用に充てた。当初は貯金しようと思っていたが、スマホが故障してしまい、新たに購入することに決めた。また、点検でタイヤの劣化が判明した。

【社会学3年・男性】 希望する企業から内定が出たら飲み会、6万円ずつ25年物のウイスキーを買った。8月下旬に無事内定が出たため、お祝い一杯飲んだ。これからは、何か良いことがあった時に飲む特別なお酒として、大事にとっておきたい。



イラスト：後藤佳伶(社会学類3年)



筑波大生の中で「学費」と呼ばれている噴水(9月9日、第二エリアで)



筑波大生！ キャンパス ことば

「学費」が今日も湧いているなあ。筑波大生はしばしば噴水をからかって「学費」と呼ぶ。一般的な学費で勉強するのに必要な費用。授業料・教科書代など(明鏡国語辞典第2版)とは用法が大きく異なる。国から配分される運営費交付金が減少傾向にあるなど、大学を取り巻く環境は年々厳しくなっている。だが噴水は大学の経費を使い、水を噴き出している。

【社会学3年・男性】 これを批判的に捉えた者が新たな用法を生み、学生の間で広まったのだ。施設部によると、噴水は1978年度に完成したものだ。景観向上のほか、薬や苔の発生や堆積を抑え、池の水を循環させる目的があり、年間1877時間運転している。電気料金は年間6万5000円。水は別の用途で使われたものを処理して再利用する。「学費の無駄遣い」と批判されたが、意外と経費はかかっておらず、効用もあるようだ。(西村大祐 人文学類3年、写真も)

【社会学3年・男性】 キャンパス言葉とは、大學生が生活を送る中で日常的に使って、学生ならではの

筑波大生！ キャンパス ことば Ⅱ 随時掲載

わたしたちの#アマビエ表現

新入生104人全員の作品公開



「わたしたちの#アマビエ表現」のサイト(9月24日、本紙編集室で) = 遠子内早紀撮影

その姿を描き写すと疫病を払うとされる妖怪「アマビエ」。芸術専門学群は、この妖怪をテーマにした1年生の作品をウェブサイトにツイッター、インスタグラムで公開している。題して「わたしたちの#アマビエ表現」。

制作されたもので、油絵や動画、立体作品など新入生104人全員の個性あふれる作品を展示する。アマビエは江戸時代に肥後国に現れた妖怪で、「病

気がはよったら、私の姿を写して人に見せよ」と言われたとされる。長い髪とくちばしのような口、首から下を覆う鱗が特徴だ。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、ネット上で話題となり、厚生労働省の啓発アイコンのモチーフにもなった。

多岐にわたる今回の作品の中には、アマビエをテーマにしたアルコール消毒容器のラベルやマスクコト型のお守りなど一般的な芸術作品のイメージに収まらないものもあり、発想の豊かさに感嘆させられる。

藤田直子教授(芸術系)を中心に新入生の担任教員らが企画した。春学期はオンライン授業となり、新入



穏やかな表情のアマビエを描いた神野さんの作品「空はどこまでも繋がっているから」= 本人提供

た。学生一人一人が自作について説明し、教員が講評した。他の学生はチャットで感想を交わし合った。藤田教授によれば、作品をネット上で公開したのは、社会と学生がつながる機会になることを願ったから。「自粛で停滞する社会の中でも芸術の学生には『表現する』という武器があることを伝えたい。今回の作品を懐かしく思い出せるような安全な社会が戻ってほしい」と藤田教授は語る。現在学内外から「見ていて穏やかな気持ちになった」など数十件の感想が寄せられている。

神野愛可さん(芸術系1年)は、夕日を浴び、穏やかな表情で屋根の上に寝転ぶアマビエを油絵で描いた。およそ1週間制作した。実家の窓から見えるお気に入りの景色が基になった。神野さんは「見た人が和んでもらえるように制作した。彩度の高い色を使うことで忠実に夕日を実現しようとした。同級生と直接会えたら、作品の話題で盛り上がりた」と話した。ウェブサイトのURLは「https://www.2020freshers-artandesign-utskubane/」(小菊日怜媛II社会学類1年、北川瑠菜)



つば市天久保で廣間菜月撮影

俳句 筑波大

風鈴や午後を途方に暮れてゐる
蚊遣火や部屋の四隅のごみ溜まり
冷奴崩れし破片吸い尽くす

今年の夏は外出する用事が少なく、一日中クーラーの効いた部屋で過ごすことばかり。そんな中で夏を感じる時といえば、夏の俳句を読んだりスマホゲームの夏イベントをしたりしている時で、それは作品の世界から現実の私へと季節感が逆輸入される不思議な体験だった。(吉川創揮II比較文化学類4年)

アートギャラリーT十再開

コロナ対策 ガラス越しに作品鑑賞

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で4月6日に閉鎖された「筑波大学アートギャラリーT十」の展示が9月9日に再開した。感染防止のため、鑑賞ギャラリー内に入らず、外からガラス越しに作品を鑑賞するなどの条件付きで、作品を搬入する際の人数制限なども設けられた。同ギャラリーの運営代表を務める松浦妃那さん(芸専3年)は「条件付きでも、再開は制作者の意欲の維持向上につながる」と話している。

(天野隼太II比較文化学類1年、西村大祐 12面に関連写真)

同ギャラリーは、主に芸術専門学群の学生が、自らの作品を週替わりで展示する舞台となった。

9月9・11日に展示された「新しい日常の窓」は、伊藤玲那さん(同3年)と杉山理佐さん(同3年)の



展示された「ドレス」= 伊藤玲那さん提供

後のギャラリーでは、こうした制約の中で新たな展示手法も模索されている。9月9・11日に展示された「新しい日常の窓」は、伊藤玲那さん(同3年)と杉山理佐さん(同3年)の

共同制作。ガラス張りのギャラリー全体をショーウィンドーに見立てた。ファッションを通してコロナ禍の新しい生活を考えることが目的だ。コンセプトを考えた伊藤さんは「ショーウィンドーに見立てたことで、通行人の目に留まりやすくなった」という。作品の一つの「ドレス」では、パーティーで着るはずだった黒いドレスとストローを差したグラスを展示。マスクに穴を開け、着

けたままストローで飲み物を飲むようにした。手袋も添えることで、コロナ禍のパーティーを表現した。制作した杉山さんは「一刻も早く大勢で集まれるようにとの願いを込めた」という。

また、芸術専門学群生を中心に、コロナ禍での衣料品の購入頻度や購入場所を聞いたアンケート結果も作品として展示した。

伊藤さんは「実際に展示してみると、思っていたよりもガラスが外の光を反射することに気付いた。今後は、その欠点を生かした展示に挑戦したい」と語った。

同ギャラリーは新入生らが上級生の作品に触れる場にもなっており、松浦さんは「先輩の作品を見て、交流することば1年生にとって大きな刺激になる。1年生には展示をぜひ見に来てほしい」と語った。

筑波大学落語研究会

オンラインで笑い届ける

筑波大学落語研究会は「夏の落語会」を7月19日にオンライン開催し、ツイッターのライブ機能を利用して配信した。国際基督教大(ICU)の落語研究会のメンバーもゲスト参加し、観覧者を楽しませた。出演したのは筑波大の3人とICUの2人で、配信としていたウナギを買い

中は最大20人が同時に視聴した。トリは筑波大学落語研究会の筑波亭呼茶さんが、古典落語の「後生鰻」を披露した。土用丑の日に近いことから「鰻を焼く」というお話を、観客も自宅で見守りながら、観覧者を楽しませた。

呼茶さんは「オンライン公演ではお客さんの笑い声が聞こえず、問の取り方が難しい。一方、他大学のメンバーも参加しやすく、観客も自宅で見守りながら、観覧者を楽しませた。



「後生鰻」を披露した呼茶さん(9月24日、本紙編集室で) = 遠子内早紀撮影

同会は新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、5月に初めてオンラインで落語会を開き、今回が2回目だった。(國井俊介)

おひつわの森は休みます。

原点 GEN-TEN

小学生の頃から社会科見学や新聞を読むのが好きで、過労死や公害病に関心があつた。私の身内には医師が多いが、いく

ら医学が進歩しても、予防できる病気に苦しむ人がいる。さらに弱い立場の人々ほど、防げるはずの病気になる。子ども心に、理不尽な世の中を変えたいと思った。

愛知淑徳高校では新聞部で、B4判手書き誌・淑徳マイツの週2回編集発行と、年2回の淑徳新聞の編集長兼論説委員にのめりこんだ。新聞部

顧問、牧亮先生の「記事は足で書け」との教え通り、学内外で取材をして記事を書く毎日。夏の合宿では、KJ法やディベートなど、考え方の訓練を積んだ。

印象に残るのは、ある環境保護団体の取材だ。当時新聞やテレビで過激な活動を批判されていた団体が、実は非暴力を掲げ、地道なロビー活動を続けていることを知った。報道を囃し立てず、賢い情報消費者になろう、と論説に書いた。また、のちの愛・地球博の当初計画が、大規模な森林破壊を伴ったものであったことを取材し、地元テレビ局の討論会に登壇した。家でも新聞を隅から隅まで読み、ひたすらシ

産業医の使命は働く人の病気の予防だ。職場を「虎視牛歩」で巡視し、病気の芽を摘むため、新聞部の取材力が役立った。

また産業医は、健康診断など大人数のデータを扱うため疫学が必修である。そこで臨床研修の後、母校の大学院に進学し、国立国際医療研究センター疫学予防研究部の上西也先生のご指導で博士論文を執筆した。折しも溝上先生の元に産業医が集い、10万人の追跡調査(J-ECHO)コホート研究)を立ち上げた頃であった。

学位取得後、専属産業医として勤務しながらコ

今年のは夏は外出する用事が少なく、一日中クーラーの効いた部屋で過ごすことばかり。そんな中で夏を感じる時といえば、夏の俳句を読んだりスマホゲームの夏イベントをしたりしている時で、それは作品の世界から現実の私へと季節感が逆輸入される不思議な体験だった。(吉川創揮II比較文化学類4年)

私の祖父、堀野は精神科医で、名古屋大学を退官した晩年は、末孫の私を可愛がってくれた。その祖父は才能教育の鈴木鎮一先生と交流があり、4人の息子にバイオリンを習わせた。そのうち末子の私の父だけが産婦人科医の傍ら楽器を続け、ピアノの母と出会った。音楽は私のもう一つの原点である。

堀愛 助教 (医学医療系)

医学医療系・助教。産業医科大学院医学研究科博士課程修了。博士(医学)。国立国際医療研究センター1号棟、東京ガス産業医などを経て、2016年より現職。

私の祖父、堀野は精神科医で、名古屋大学を退官した晩年は、末孫の私を可愛がってくれた。その祖父は才能教育の鈴木鎮一先生と交流があり、4人の息子にバイオリンを習わせた。そのうち末子の私の父だけが産婦人科医の傍ら楽器を続け、ピアノの母と出会った。音楽は私のもう一つの原点である。

ポストコロナ 新しいつくば

②大学教育編

新型コロナウイルスは大学教育にも大きな影響を及ぼした。キャンパスへの立ち入りが制限されたため、コロナ前までは珍しかった「オンライン授業」が当たり前になった。大学図書館も休館となり、レポートの作成や勉強会の開催、自主学習などが難しくなった。コロナで浮き彫りとなった大学教育の課題は何か。ポストコロナの大学教育はどう変わるのか。オンライン授業は続けるべきなのか。大学教育の行方を追った。(西村大祐・木村誠二・人文系類、北川瑠菜二・比較文化学類、後藤佳怡二・社会学類、遠子内早紀二・教育学類)



蒲島 郁夫 熊本県知事

かばしま・いくお 1947年熊本県生まれ。高校卒業後、地元農協に就職。68年農業研修生として渡米。79年ハーバード大大学院修了。筑波大社会学系教授、東京大教授などを経て2008年から現職(4期目)。東京大名誉教授。

「ゼミ」で参加型の授業を重視していた。また、飲み会などでのゼミ生との懇談では、教員と学生が本音で話し合うことができた。学生はもちろんだが、教員の私も探究心向上や人間としての大きな成長につながる貴重な場になった。そういった意味で、大学の役割を考えた時、オンライン授業だけ含めた議論を進めるべきだと思う。

オンラインと対面のベストミックス

秋入学の導入には官民挙げて社会の変革が必要だ。秋入学は海外の優秀な学生を呼び込み、日本から海外の大学に進学するきっかけとなる。政府においてメリットや課題を含めた議論を進めるべきだと思う。

熊本県では4年前の地震からの復興のため、県出身の尾田栄一郎さんの漫画「ワンピース」と連携した復興企画に取り組んでいる。私も実際に原作を読んで、主人公ルフィが持つ「無限の可能性」と「友情」に共感した。現在の熊本は、地震、コロナ、豪雨災害のトリプルパンチに見舞われ、まさに逆境の中にある。私もルフィと同じ無限の可能性を持って、この逆境を必ず乗り越えようとの決意で業務に当たっている。

「教育再生実行会議」教育再生可能性のあるから。教育再生実行会議は、オンライン授業やグローバル化などについて、これまでとは違う大胆な発想でポストコロナの新たな学びの在り方を議論できるといいます。コロナ禍の学生へのメッセージを私のモットーである「逆境こそ夢がある」ことを伝えたい。このような逆境の時だからこそ、「新しい首相、文科相など有識者計25人を経験をしている」と前向きで構成される。

熊本県では4年前の地震からの復興のため、県出身の尾田栄一郎さんの漫画「ワンピース」と連携した復興企画に取り組んでいる。私も実際に原作を読んで、主人公ルフィが持つ「無限の可能性」と「友情」に共感した。現在の熊本は、地震、コロナ、豪雨災害のトリプルパンチに見舞われ、まさに逆境の中にある。私もルフィと同じ無限の可能性を持って、この逆境を必ず乗り越えようとの決意で業務に当たっている。

文科省は来年度、連携する他大で取得した単位を、自らの大学の卒業に必要な単位に変換できる制度を導入する予定だ。オンライン授業にも適用されるため、地理的に離れた大学の授業でも、自大の授業として受講できるようになる。

文科省は来年度、連携する他大で取得した単位を、自らの大学の卒業に必要な単位に変換できる制度を導入する予定だ。オンライン授業にも適用されるため、地理的に離れた大学の授業でも、自大の授業として受講できるようになる。

教員アンケート オンライン授業 半数「良い」

筑波大が春学期に実施したオンライン授業について、教員への影響や教員の意見・対応を探るため、本紙は9月7～11日、無作為抽出した教員1000人を対象にアンケートを実施し、286人から有効回答を得た。

オンライン授業を実施してどのように感じたかを聞いた質問に対し、48.6% (139人) が「良かった」「どちらかといえば良かった」と答えた。「悪かった」「どちらかといえば悪かった」は11.9% (34人)、「どちらともいえない」が39.5% (113人) だった。

対面授業ができる状況・環境になった後も授業形態の一つとしてオンライン授業を行うことに「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えたのは70.3% (201人) で、「反対」「どちらかといえば反対」の16.1% (46人) を大きく上回った。

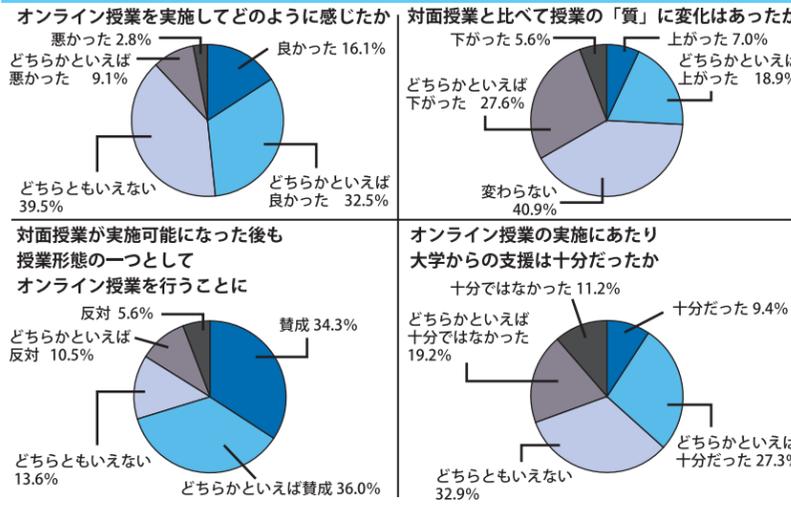
オンライン授業の良かった点を聞いたところ、「コロナの感染拡大を防ぐことができた」が63.3% (181人)、「学生が時間に縛られずに受講できた」が59.8% (171人)、「学生が講義を繰り返し見ることができた」が58.4% (167人) などとなった。

一方でオンライン授業の悪かった点は、66.4% (190人) が「学生とのコミュニケーションが難しかった」、66.1% (189人) が「授業の準備に時間がかかった」、49.3% (141人) が「習得度の把握が難しかった」を挙げた。

対面授業と比べて授業の「質」に変化があったかを尋ねたところ、「変わらない」が40.9% (117人) と最も多く、次いで「下がった」「どちらかといえば下がった」が33.2% (95人) だった。

対面授業に比べ、教員の負担量は81.1% (232人) が「増えた」「どちらかといえば増えた」と回答した。オンライン授業を実施する際の大学からの支援については、「十分だった」「どちらかといえば十分だった」が36.7% (105人)、「十分ではなかった」「どちらかといえば十分ではなかった」が30.4% (87人) だった。「どちらともいえない」は32.9% (94人) だった。

オンライン授業に関する教員へのアンケート調査 (本紙調べ)



国の政策は

文科省は7月、全国の大学に向けて後期(秋学期)と来年度の授業形態について通知した。感染状況や受講者数、教育効果などを考慮し、実施が適切な場合はできる限りの対面授業を実施することを求めている。

同省の担当者は、学生と教員や学生同士が対面でコミュニケーションを取ることで得られるものの重要性を踏まえたという。

秋生田光一文科相は7月の記者会見で「オンライン授業は有用性も指摘されているが、安易に流れるべきではない。大学は工夫をしながら、対面とオンラインのハイブリッドに取り組みでもらいたい」と語った。

同省の中央教育審議会では、ポストコロナの大学教育の在り方を検討している。このうち、大学分科会の下に置かれた「質保証システム部会」では、オンライン授業の教育の「質」をどのように保証するかの議論が始まっている。

電子資料提供は以前からの課題

大学図書館は教育と研究の支援機能を持つ、大学に無くてはならない知識基盤だ。コロナは大学図書館にも影響を与えた。感染拡大で多くの大学図書館が臨時休館になり、再開後も滞在時間や閲覧座席数などの利用制限が続く。ポストコロナの大学図書館はどうあるべきなのか。

「教育支援機能」失われ
文科省は大学図書館を「大学の教育研究にとって不可欠な中核を成し、総合的な機能を担う機関の

大学の政策は

文科省は7月、全国の大学に向けて後期(秋学期)と来年度の授業形態について通知した。感染状況や受講者数、教育効果などを考慮し、実施が適切な場合はできる限りの対面授業を実施することを求めている。

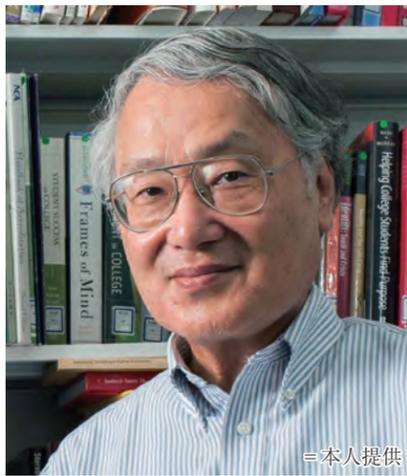
同省の担当者は、学生と教員や学生同士が対面でコミュニケーションを取ることで得られるものの重要性を踏まえたという。

秋生田光一文科相は7月の記者会見で「オンライン授業は有用性も指摘されているが、安易に流れるべきではない。大学は工夫をしながら、対面とオンラインのハイブリッドに取り組みでもらいたい」と語った。

同省の中央教育審議会では、ポストコロナの大学教育の在り方を検討している。このうち、大学分科会の下に置かれた「質保証システム部会」では、オンライン授業の教育の「質」をどのように保証するかの議論が始まっている。

専門家に聞く

日本の大学教育を長年研究し、「高等教育研究の第一人者」とも評される金子元久特命教授(大学研究センター)に、コロナ禍での大学の対応や今後の大学教育の展望について聞いた。(聞き手・遠子内早紀)



金子元久 特命教授

かねこもとひさ 1950年生まれ。シカゴ大学大学院修士。ニューヨーク州立大学バニー校客員助教授、広島大助教授、東京大教授などを経て2012年より現職。東京大名誉教授。中央教育審議会専門委員、日本学術会議委員、日本高等教育学会会長を務める。

発生時の対応想定を

実験や実技など一部の授業は対面で行われているが、コロナ収束の見通しが立たず、対面授業を今後、どの程度の規模で実施できるか分からない。対面授業の実施をまだ決めていない大学も多い。

授業は残るだろう。一方で、対面授業のやり方にも大きな変化が起これるのではないかと。ウェブ上の資料を使用したり、他大学で行っている授業をオンラインで受けられるようになるかもしれない。

保てなくなることもある。感染防止のためにはオンライン授業にならざるを得ない。小規模の対面授業でも、コロナが収束しなければ、以前の授業方法に完全に戻ることはできないだろう。

求められる連携 クセス数を拡大したり、一部資料の無料ダウンロードを認めたりした。5月には、同館が医学論文の検索システム「医中誌Web」との契約内容を変更し、学外からのアクセスも可能にした。

阿部館長は「大学図書館の電子資料の利用と提供は以前から大きなテーマだった」と語る。電子ジャーナルの契約を増やし、蔵書検索システムを高度化させたりしてきたという。

電子ジャーナル コンピューターを利用し閲覧する電子化された雑誌。特に学術系の論文誌を指す。

オンライン授業は続く

ポストコロナでも、オンライン

授業方法 大きく変化

利用者の性格に合わせるべきだと考えられてきた。だが、今回の研究で、話の内容や高齢者の性格によって、むしろ逆にロボットの性格をマッチさせたい方が好ましいことが明らかになった。

だが、オンライン授業は対面授業と方法が大きく変わった。教員は授業で話す内容をより計画を立てて決めるようになり、授業後は学生の理解度を確認するための課題を出すようになった。

ポストコロナでは、オンライン授業がきっかけとなり、学生がきちんと勉強するようになるかもしれない。

同館が契約している複数のデータベースや電子ジャーナルの提供が、4月から期間限定で同時ア

省から執筆スタイルを見直して、朝3時半から2時間集中して書いて出勤する生活に切り替えました。

Hello! 先端研究

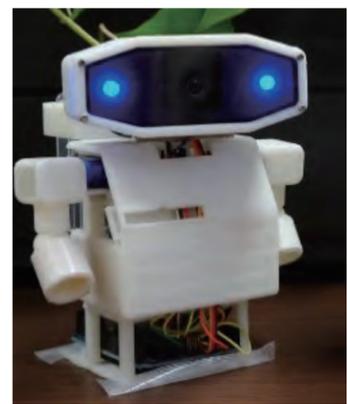


田中文英准教授

少子高齢化が進み、独りで暮らす高齢者の社会的孤立をどう防げかが課題となっている。悩み事を一人で抱え込まず、誰かに打ち明ける自己開示は、有効な予防手段だ。田中文英准教授(シス情系)らの研究グループは、対話型ロボットによる仲介が高齢者の自己開示に有効だと確認し、ロボットがどんな性格なら対話が進みやすいかを明らかにした。高齢

高齢者の孤立防ぐ ロボットが話し相手に

のギャップを埋め、コミュニケーションの円滑化や自己開示の促進を図りたいと考えた。研究グループはまず、21人の高齢者(平均年齢72歳)を対象に2種類のロボットを使い、電話で話す場合とロボットが仲介して人と話す場合と



実験で使われたロボットの一例=筑波大提供

の設計に重要な指針が10種類以上明らかになった。例えば、内向的の感情が不安定な高齢者と健康に関する話題をする際には、ロボットは反対に外交的で穏やかな性格にした方がよいという。田中文英教授によれば、対話型ロボットの性格は



千葉ともこさん



千葉ともこさん

筑波大学在学時は、演劇サークルで台本と演出を担当していました。卒業後も演劇に携われたらと思っていましたが、世間は就職氷河期で、憧れていた劇団も研修生の募集を中止。そこで、小説ならば、役者も照明も音響も一人でできるのではな



9月17日に刊行された松本清張賞受賞作「震雷の人」

作家 千葉ともこさん

生懸命登っている。私は、自分の山を登ることに集中すればいい。目の前の作品に真剣に打ち込むうちに、自分に受賞できるわけがないという「常識」を忘れていました。受賞が叶い、小説家としてスタート地点に立つ

自分の山を登ることに集中

困難な状況に直面すると、夢が大きければ大きいほど苦しい。今もし夢を持ってあなたが大きな苦難の中にいるのだとしたら「大学の卒業生にヤンキーがいたな」と思い出してみてください。もしよかったですら、このヤンキーを心に置いてみませんか。かつての私のように心身を壊すほどの無理をしてはいけません。今を乗り切れるように、または、ちょっとだけ踏み張れるように、応援いたします。(平成12年度日本語・日本文化学類卒、写真はいずれも文藝春秋提供)

日本インカレ 3年連続 女子総合優勝



3回目の試技で1.75の跳躍に成功した浅井＝陸上競技部提供

日本学生対校選手権(日本インカレ)が9月11〜13日、デンカビッグスワンスタジアム(新潟市)で行われた。無観客の開催となった大会で筑波大女子は、走高跳で浅井さくら(体専4年)が初優勝するなど好記録が相次ぎ、3年連続の総合優勝を果たした。女子フィールドの部でも優勝した。また、筑波大は男女合計で17種目18人が入賞した。(大和祐葉)

浅井 悲願の初優勝

陸上

部員全員で活動ができたという期間が長く、例年と異なる状況でも筑波大の女子は強さを発揮した。女子走高跳で優勝した浅井の記録は1.75。初めの1.65をパスし、次の1.70を2回目で、1.75を3回目でクリアすると、優勝記録となった。浅井は「一回で成功させた。浅井は「一週間中は陸上生が一番難しい期間だった」というが、自身の跳躍について「無観客開催」で応援に来られなかった部員に自分の活躍を届けたいという思いで、競技を楽しむことができた」と振り返った。

また、三段跳の山下桐子(同3年)円盤投の半田水晶(体育P1年)ハンマー



ベンチに集まる選手ら＝女子ハンドボール部提供

終始リード譲らず白星発進 今年度初の公式戦

秋季リーグ

ハンドボール

8大学で争う関東学生秋季リーグ戦が、9月13日から行われている。筑波大女子は13日、日本女子体育大(東京都世田谷区)でリーグ初戦を迎え、早稲田大と対戦した。素早い攻守の切り替えやキーパー宝田希緒(体専3年)の好守で終始リードを保ったまま、27-18で勝利した。

新型コロナウイルスの影響で春季のリーグ戦が中止となり、筑波大は早稲田大との試合が今年度初の公式戦となった。

試合開始直後、パスを受けた高橋弥那(同1年)が敵陣の中央に空いたスペースに走り込み、立ち上がりから先制点を獲得した。その後半14分、相手の反則により筑波大ボールになる

と、速攻で平野がゴールを奪う。ペースをつかんだ筑波大は、速攻を中心し得点を重ねて点差を広げた。後半18分にはバスマスから相手にボールを奪われ、フリーの状態でのシュートを打たれたが、こも宝田が阻止。その後は安定した試合運びを見せて試合終了。

リーグ初戦に勝利し、順調なスタートを切った。

山田永子監督(体育系・助教)は「コロナ下で遠征ができなかった分、チーム内の紅白戦などで攻防の質を高めることに注力した。昨年からチームの主軸だった3、4年生だけでなく、新入生も活躍できた。次につなげる良い試合内容だった」と語った。

(國井俊介、遠子内早紀)

スポーツの顔



野球

1年生ながら、正捕手として3、4年生とバッテリーを組む。身長189センチ、体重85キロ。がっちりとした体格を生かした素早いスローイングとしぶといバッティングが持ち味だ。だが、強みはそれだけではない。

「人に流されるのが嫌い」という。「自分」というものを持ったその姿勢が、捕手としての土台を支えている。だからこそ、ベンチの指示なしでも、投手の調子を見て臨機応変に投球の組み立てを交えられるのだ。



捕手としてセンバツ優勝に貢献 成沢 巧馬 (体専1年)

愛知県出身。野球を始めたのは小学4年生の時。当時から大きかった体格を見込まれ、投手と

る」と自信も持った。中学では、日本一に輝いた実績もある豊田リトルシニアに加入。捕手へ

社会人野球で活躍したコーチから聞き、目が覚めた。投手を引く張り、野手の動きを束ねる捕手の面白さを初めて自覚した。

地元の強豪である東邦高校では1年時からレギュラーとして活躍した。しかし、2年時秋の明治神宮大会は初戦で敗退。大会後に監督の持病が悪化し、部員が練習メニューを考

現在の課題は打撃の改善だ。バットが高校まで使用していた金属製から木製に変わり、使いこなせていない。ボールをバットの芯で捉えることを意識している。

硬式野球部は8月から活動を再開し、9月3日のオープン戦でサヨナラヒットを打った。筑波大の投手陣にとって頼もしい女房役が現れた。(田所涼川教育学科3年 写真本人提供)

「また日本一を目指したい」

愛知県出身。野球を始めたのは小学4年生の時。当時から大きかった体格を見込まれ、投手と

る」と自信も持った。中学では、日本一に輝いた実績もある豊田リトルシニアに加入。捕手へ

社会人野球で活躍したコーチから聞き、目が覚めた。投手を引く張り、野手の動きを束ねる捕手の面白さを初めて自覚した。

地元の強豪である東邦高校では1年時からレギュラーとして活躍した。しかし、2年時秋の明治神宮大会は初戦で敗退。大会後に監督の持病が悪化し、部員が練習メニューを考

現在の課題は打撃の改善だ。バットが高校まで使用していた金属製から木製に変わり、使いこなせていない。ボールをバットの芯で捉えることを意識している。

硬式野球部は8月から活動を再開し、9月3日のオープン戦でサヨナラヒットを打った。筑波大の投手陣にとって頼もしい女房役が現れた。(田所涼川教育学科3年 写真本人提供)

チャリティーマッチ開催 心拍数など分析も

eスポーツ

eスポーツのサッカー大会を7月18、19日に筑波大スポーツインフォメーション開発センター(SIRC)で開催された。観戦者も、コロナ禍で苦しむ

学生支援を呼びかけるチャリティーマッチで、筑波大生8人が参加した。eスポーツ参加者の気分の高揚状態などを調べ、今後の教育に生かすため、SIRCの研究者が選手の心拍数の計測や唾液の採取をした。

大会は「筑波大学SIRC I SHO eFootball 1 ワイニングイレブン」チャリティーマッチで試合1試合10分。18日に1回戦4試合、翌日に準決勝戦、決勝と3位決定戦が行われた。

心拍数は事前に測定器を選手に配り、オンラインで計測した。唾液採取キットも事前に選手に届けてあり、回収して分析中だ。

松井助教は「eスポーツへの参加は、実際に運動したかのような生理反応を引き出す。通常のスポーツイベントなどの代替策として有用である可能性が初めて確認できた」と説明する。

心理的な効果の一部は唾液中のホルモン濃度で説明できる可能性がある。松井助教は、詳しい分析結果を今年11月の筑波大学産学連携シンポジウムなどで発表する予定だ。(加藤優花)

コロナ禍で始まった大学生活 1年生の現状を追う!

課外活動

【資源1年・女性】

自然が好きでワンダーフォーゲルクラブに入った。だが、感染防止のため活動の見通しが立たない。現在は本で勉強するなど、自主練習に励んでいる。まだ会えていない1年生や先輩と活動がしたい。

【社工1年・女性】

パフォーマンスをする文化系サークルに5月に仮入部した。週に2回、オンラインでストレッチや雑談をする機会があり、時々参加している。だが、対面でない練習の雰囲気やメンバーの人柄が分かりにくく、正式入部するかどうか決めかねている。

【社会学1年・男性】

大学で本格的に馬術を始めたいと思っていたが、活動ができず悔しい。対面での練習はしばらくできないと考え、内ももの筋肉を毎日10分間鍛える自主トレーニングを1カ月前から始めた。入部時期が遅れることで、馬術大会への出場機会や、大会での成績に悪影響が出るのではないかと心配している。

【社工1年・男性】

サークルのオンライン新歓は一部のメンバーの話しか聞けず、活動内容がつかみにくい。秋学期は興味があるサークルの対面形式の新歓に参加し、全体の雰囲気を理解した上で入部したい。

【教育1年・男性】

春学期は実家で過ごしたため、友人との交流はツイッターやLINEが中心だった。外見を知らなくてもコミュニケーションが取れる分、内面を重視した交流ができたと感じる。だが、つくばにいる人同士が遊んでいることを知ると、うらやましくてつらかった。

【生物1年・女性】

春学期は実家で過ごしたので、新しい友人が1人もできていない。友人と一緒に授業について話し、理解を深めたかった。秋学期もオンラインでの実施が決まった授業が多く、友人ができるか不安だ。

交友関係

【資源1年・女性】

当初は実家暮らしで、1人で課題や授業に追われる日々だったため、孤独だった。オンラインで友人作りやサークル活動をしたが、会話に参加しづらいなどデメリットが大きかった。7月中旬からつくばで1人暮らしを始めた。時間の制約もなく、友人ともすぐに会うことができ、楽しいことばかりだ。

私生活

【人文1年・男性】

春学期は、つくばへの引っ越しを延期して実家で過ごした。地元の自動車学校に通うことができた。当初は夏休みの免許合宿に参加するつもりだったが、慣れた道で教習が受けられたのでよかった。

【知識1年・女性】

秋学期の授業は全てオンラインに統一してほしい。自宅から通学予定で、混雑する電車に乗ることに抵抗がある。自分が感染し、家族に移すことも怖い。一部を対面授業にすることで、学内が混雑してしまうのではないかと心配だ。

【心理1年・女性】

一つ一つの授業に時間をかけて向き合いたかったが、課題をこなすことで精一杯だった。学びたかったはずの内容でも、モチベーションが維持できなかった。課題を機械的にこなすだけの週末はもう嫌だ。

学業

【資源1年・男性】

高校3年生の時から興味があったタイ・カセサート大への留学をあきらめかけている。東南アジアの農業について学びたいので、オンラインで留学を体験できる機会があれば参加したい。

【資源1年・女性】

大学院を修了するまでに留学したいと思っている。先行きが不透明で不安だったが、留学の募集が一部再開し、希望を持てた。秋学期は時間の融通が利くオンライン授業の特性を生かし、英検やTOEFLの勉強にも力を入れたい。実のある準備期間にしたい。

留学

【教育1年・女性】

北欧に留学し、教育制度やジェンダー論について学びたい。だが、新型コロナウイルスの影響で見通しが立たない状態だ。今は留学制度の情報収集など、できることを進めている。自身がオンラインに順応できておらず、オンライン留学はハードルが高いと感じている。

【比文1年・男性】

実家にいたため、慣れないオンライン授業の中、家事をせずに済んだのは助かった。だが、祖母を自宅で介護しているので、両親がいない時は授業動画を止めて介護を手伝うこともあり、正直しんどかった。

【心理1年・女性】

8月下旬に天久保のアパートに入居する予定だったが、同地域でクラスターが発生したため引っ越しを見送った。つくばにいる友人と直接会いたかったので残念だ。現在引っ越しのめどは立っておらず、途方に暮れている。

【国際1年・男性】

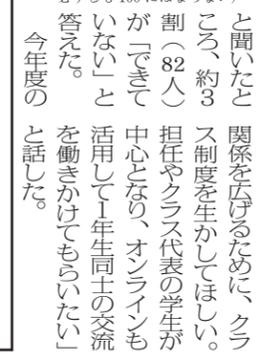
春学期は実家で過ごしたが、家族全員と1日中一緒にいることが息苦しかった。7月末に学生宿舎に入居したことで、解消された。誰からも干渉されず、自由に趣味の散歩ができて幸せだ。

部活動・サークル 6割所属せず

実態調査では、課外活動に参加できず、友人作りにも悩む1年生の姿が浮かんできた。部活動やサークルに所属している(仮入部)は約6割(142人)が「していない」と答えた。所属していない理由としては、▽所属するタイミングが分からなかったから(58人)▽オンライン新歓

では団体の活動内容が分かりにくいから(31人)——などの理由が挙げられた。筑波大の平成29年度学

生生活実態調査によると、1年生が置かれた状況について、佐藤忍副学長(学生担当)は「入学して半年間は、新生活が始まるころでも楽しい時期だが、今年はそれが失われ、非常に残念だ」と語った。また、大



部活動やサークルに所属しているか
所属している(仮入部) 15.1%
所属していない 55%
所属している(入部している) 29.8%
(回答者は1年生258人。四捨五入のため合計は必ずしも100にはならない)

例年とは異なる相談多く

筑波大学生相談室には例年、1年生から1人暮らしの悩みや友人の作り方についての相談が多く寄せられる。だが、同室の杉江征教授(人間系)によると、今年度の春学期は▽課題が多かつらいつらいつらと休む学生が少なく▽友人と会えない——など、授業がオンラインで行われていることが原因の相談が多く寄せられたという。オンライン授業を受け

る子供の様子が心配になり、家族が相談した例もあった。カウンセラーを務める慶野遥香助教(同)は、授業に関する相談の根底には、交友関係を持っていないこともあると指摘する。

孤立が生む新たな悩み

オンライン授業では、分らないことを教員に気軽に聞きにくい。また、休みの時間が雑談もなく、十分に友人とコミュニケーションを取れないことから、不安や悩みを一人で抱えてしま

う学生が多いという。秋学期からは一部で対面授業も始まるが、杉江教授は新たな問題が生じる可能性があると感じている。春学期は授業が全てオンラインで実施され、多くの新生は孤立していた。通常は、大学に入学した4月から5月にかけて新生向けイベントがあり、それらを通して大学の人間関係が形成されていく。しかし、今年度は対面でのそうした機会がなかった。その結果、自分自身を閉じこめ、悩む学生が増えている。友人と会えないことが懸念されるとい

記者の目

友人と一緒に道に迷いながら教室へ移動したり、松美池のベンチでたわいもない話をしたり。今思えば、また大学に慣れない1年生の頃の自分にとって、気軽に話せる友人が隣にいたことは大きな支えだった。

今年度は、対面授業や課外活動だけでなく、入学式や入学式後のイベントもない。1年生は友人と出会うことが難しくな

った。だが、春学期に大学は1年生の交流の場を特に設けなかった。フレッシュマン・セミナーなどでオンライン交流会が開かれたクラスもあるが、それも一部に過ぎない。

同級生と親しくなる機会が少ない中、1年生の多くはSNSを活用し

た。だがSNSで友人ができた人からも「顔が見えずやりとりが難しい」「本当の友人と言えない」と悩む声も聞かれる。佐藤忍副学長(学生担当)は「クラス制度を活用し、担任やクラス代表を中心に交流してもらえたら」と話した。だが、担任の教員やクラス代表の学生の自主性に任せるだけでは不十分だ。友人の重要性が軽視されてはならない。悩みの相談、学業のモチベーション維持など、大学生活で友人が果たす役割は大きい。

秋学期からは対面授業が再開し、出合いの場も増えていく。1年生がスムーズに交友関係を築けるよう、大学は率先して舵を取ってほしい。(北川瑠菜)



春学期授業 舞台裏を追う

学年暦変更やオンライン化 タスクフォースが議論主導

筑波大の新型コロナウイルス感染症への対応

- 1月 29日 | 新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム発足
- 2月 28日 | 課外活動団体にイベント・集会・合宿などの2週間の中止・延期を要請
- 3月 10日 | 代表者のみでの卒業式・学位記授与式実施を発表
- 12日 | 2020年度の入学式中止決定。課外活動の自粛期間を春学期授業開始日まで延長
- 13日 | 課外活動団体会議が所属する全団体への新入生歓迎活動の全面的な自粛を要請
- 18日 | 全学生に対し渡航禁止を、渡航者には帰国を要請
- 27日 | **20年度の学年暦改正を発表 春学期授業開始は4月27日に**
- 4月 1日 | 学生宿舎への一斉入居中止を発表
- 3日 | 文化系サークル会館や体育系サークル会館、開学記念館など課外活動施設への立ち入りを禁止
- 9日 | 佐藤副学長(学生担当)が課外活動の全面自粛を要請
- 4月 17日 | **茨城県に「緊急事態宣言」発令(4月16日~5月14日)**
- 21日 | 政府の緊急事態宣言の対象地域拡大を受け、授業はオンラインのみとし、学生の入構は原則禁止とすることを通知
- 27日 | 附属図書館全館休館 **春学期のオンライン授業開始**
- 5月 15日 | 緊急事態宣言を受けた対応の当面継続を通知
- 6月 1日 | 筑波大学説明会をオンライン開催に変更
- 5日 | レポート負担配慮や授業時間短縮などを要請
- 19日 | **条件付きで入構が可能に**
- 7月 17日 | 2021年度入試の新型コロナを受けた措置を発表
- 22日 | 条件付きで課外活動の再開が可能に
- 29日 | 筑波大学学園祭(雙峰祭)の中止を発表
- 8月 7日 | **秋学期授業の一部を対面で実施すると発表**
- 26日 | 学術情報メディアセンターサテライト端末室再開
- 9月 1日 | 「本学の活動形態の変更について」発表
- 9日 | 附属図書館の開館時間延長を発表

(筑波大の資料などから作成)

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、春学期の開設授業が全てオンラインとなった筑波大。開学以来初の事態に大学側はどのように対応したのだろうか。コロナ禍のオンライン授業の舞台裏に全2回で迫る。

(西村大祐、北川瑠菜、後藤佳伶)

未曾有の事態 対応に追われ

新学期を目前に控えた3月、国内の感染が急増する中、筑波大も迅速に対応できる体制を整える必要に迫られた。教育担当副学長や学務担当副学長、教務マネジメント室長などが緊急集まり、3月16日に発足したのが「新学期対応タスクフォース」だ。

タスクフォースが教育に関する大学全体の議論を主導した。3月27日には、筑波大のウェブサイトで授業開始日を4月8日から同27日に遅らせることが発表された。4月1日には、春学期の授業をオンラインで実施すると発表。教職員はオンライン授業の準備に追われることになった。

学術情報メディアセンターは3月30日、授業の収録・配信方法を公開する教員向けのウェブサイトを開発した。4月9日にはオンライン会議システムの使い方を教員に教える講習会が開かれた。

学生の声を受け改善

5月中旬に全学学類・専門学群代表者会議(全代会)が実施したアンケート調査では、オンライン授業で多くの課題が出され、土曜授業で休みが減ったことで学生が疲弊している現状が明らかになった。

山田敏正教授(芸術系)は「大学は授業を提供するだけの場所ではない。調査を実施して、大学の持味は人との交流だと再確認した」と話した。調査は7月の中間報告を経て、10月に最終報告をする予定だ。

学類超え連携

4月上旬、学類や大学院の学位プログラムなどの教育組織では、一部の教員がオンライン授業支援を担当することになった。担当教員は「オンライン授業対応チーム」の一員として、所属組織を超えて情報を共有した。



土井助教が作成したマニュアル(9月25日、本紙編集室で) = 後藤佳伶撮影

これは受け、清水副学長は6月5日、各教育組織や教職員などに対し、例年の対面授業時と比較してレポート課題を出しすぎないことや授業時間の厳守、動画時間の短縮を求めた。また、8月にはこれまでのオンライン授業を振り返るため、教職員向けの研修会が開かれた。約300人が参加し、好事例の紹介や春学期の課題の共有が行われた。参加者からは、オンライン授業実施の要点を指針にまとめてほしいという声も上がった。

6~9月に分散入居 学生宿舎 感染対策講じ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止された4月の学生宿舎一斉入居に代わり、6~9月の間に計8回の入居日が設けられた。9月18日時点で580人が入居し、9月末の入居には74人が申し込んだ。宿舎には、4月の一斉入居で1412人が入居予定だったが、来日できない留学生や入居を辞退した学生など531人を除く881人の入居が予定されている。



入居手続きの説明を受ける1年生(8月28日、平砂学生宿舎共用棟で) = 車谷郁実撮影

うち、74%が秋学期開始までに入居する予定だ。大学への入構規制が6月19日に解除されたことを受け、実習や実験などが再開しつつある。学生生活課は入居予定者が各自の授業に間に合うよう、各月に入居日を設定した。設定日に入居できない学生には個別に対応した。当日は入居者の集中を避けるため、建物ごとに受付時間を指定した。列に並ぶ際は間隔を空けるよう指示するなど、職員や入居者同士の接触がなるべく少なくなるよう配慮した。建物の入り口では入居者に検温を実施し、感染防止に努めた。

例年は、学生が事前に送った荷物を、大学が委託した運送業者が取りまとめ、一斉入居の日に入居者の部屋に運び込んでいた。今年も、一斉入居中止が決まった4月1日時点で、この枝垂れ桜は筑波大の前身の東京教育大から移植されたものだが、そもそもこのルートは京都にある。園芸学の専門家だった故藤井利重・東京教育大名誉教授が、東京文理科大(東京教育大の更に前身)に赴任したことが、関東に枝垂れ桜がやってきたきっかけだ。

大学の歴史見守った枝垂れ桜

京都にルーツ 伐採惜しむ声

本部棟南の枝垂れ桜が8月29日に伐採された。木を腐らすキノコなどの影響で衰え、倒木の恐れがあったからだ。大学の歴史を見つめてきたシンボルツリーの喪失を惜しむ声が、卒業生から寄せられている。だが、この枝垂れ桜から接ぎ木をした2本の後継樹が筑波キャンパス内の筑波実験林に現存しており、今後はその子孫の苗木を育成して学内に移植する予定だ。(後藤佳伶、12面に関連写真)

だが、木の80%が既に枯れていることが17年に判明した。倒木の危険性もあるため、今年3月に伐採することが決まった。

京都大に在籍経験のある藤井氏は、京都で代々庭師を務める第15代佐藤藤右衛門氏(故人)と親交があった。国内の桜の保全活動を「桜守」として有名な人物だった。藤井氏は赴任の際に佐藤氏から枝垂れ桜の苗木を譲り受けた。苗木は東京文理科大附属保谷農場の正門に植えられた。そして1975年、筑波大の開学記念樹の一つとして移植された。



開学30年の2003年に記念写真を撮る筑波大役員 = 筑波大広報室提供。写真は東京文理科大附属保谷農場の正門に植えられた。そして1975年、筑波大の開学記念樹の一つとして移植された。

伐採されたのは樹齢約80年と推定されるベニシダレ。衰退する前の2000年代初めまでは、毎年春に鮮やかなピンク色の花を満開のように咲かせていた。春は定番の写真撮影スポットになっており、卒業や入学の記念写真を撮る学生が多かった。学長や副学長など大学役員や、新しく赴任した教職員の写真撮影場所にもなった。だが、2007年の樹木

医による調査で、ベッコウダケというキノコが木の内部を腐らせていたことが分かった。また、桜や梅などを枯らすコスカシバという害虫の被害も受けていた。施設部は、後継樹を残すために接ぎ木をし、支柱の設置や、薬剤の塗布、肥料散布などを行った。その後、衰弱が進む枝垂れ桜を守るべく、学内の専門家を中心に「枝垂れ桜復活プロジェクト」が立ち上がった。

Who's Who?

「MdNデザイナーズファイル」に学生では初の掲載

岡本 太玖斗 さん (芸専4年)



湖畔に佇む岡本さん=本人提供

学生でありながら、グラフィックデザイナーとして活動する。作品やプロフィールが今年2月、著者佐藤デザイン年鑑MdNデザイナーズファイルの20年版で紹介された。学生の掲載は初の快挙だ。

今年度の筑波大入学生案内の表紙や昨年5月に平砂学生宿舎で行われた「平砂アートムーブメント」のポスターなど、学内でその作品を目にする機会は多い。

小学2年の時、ユニクロのロゴを手掛けた佐藤可士和さんの特集を雑誌で読み、グラフィックデザインという分野を知った。それからは、身近にある食品や家電などさまざまなテーマにポスターやロゴ作りを熱中するようになった。

だが、大学で芸術系へ進学するつもりはなかった。分野にとられない視点をも身に付けたいと考え、教養系の学部を狙っていたからだ。しかし、うまく行

他分野の授業から幅広い視点 「人の意識変えるデザインを」



岡本さんの作品「#willpower」=本人提供

作品を作る上で意識しているのは「わずかな毒を盛ることだ。象徴的な作品の一つが、芸専の「構成特別演習作品展 S anagi」(昨年12月開催)のポスターだ。

「単に消費を促すのではなく、人の意識を変えられる社会性のあるデザインを制作することが目標」だ。これからは、彼の作品から目が離せない。

グローバルゲストハウス開所



開所式のテープカットに参加する永田学長(中央)(9月1日、春日エリアで) = 田所涼撮影

3面へ

アートギャラリーT+ 再開



ギャラリーをショーウィンドーに見立てた「新しい日常の窓」(9月9日、体芸エリアで) = 西村大祐撮影

5面へ

枝垂れ桜伐採



枝垂れ桜の枝を切断する作業担当者(8月29日、本部棟南で) = 山田優芽撮影

11面へ

宿舎入居 分散で実施



宿舎入居の受付前に検温が行われた(8月27日、一の矢学生宿舎共用棟で) = 工藤和哉撮影

11面へ

学内総合

学芸

学生生活

学生生活

編集後記

部活動によっては大会の再開が見送れない状況が続いています。その影響もあり、

編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会
▽委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学
▽副委員長 佐藤勲(学生部長) 委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学(竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学)

■筑波大学新聞編集部
▽編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション
▽編集長 西村大祐(人文社会学系3年) 副編集長 後藤佳怡(社会学系3年) 加藤優花(国際総合学系3年) ほか編集部員21人

次号は
11月6日(金)
発行予定です

発行所 筑波大学
印刷 ヒラマ写真製版